

## パンチャシラの日

今回は2016年6月にインドネシア共和国大統領であるジョコ・ウィドド（通称ジョコウィ）大統領が定めた国民の日「パンチャシラの日」をテーマに、インドネシアで確立された独自の宗教観や文化などに触れて、インドネシアで生活するにあたって、また、対インドネシアのビジネスを行うにあたり知っておきたい基礎情報をご紹介します。

### 「パンチャシラ」とは

#### ●歴史的背景

多くの方がご存知のとおり、インドネシアは長年にわたりオランダ領東インド植民地として支配を受けてきましたが、インドネシア民族運動が活発化したことで、オランダに対しての民族抵抗運動が強まり、1950年にインドネシア共和国として独立を遂げました。

インドネシアの独立には日本は深く関係しており、日本軍がオランダ軍を降伏させ、インドネシアを占領した後、日本はインドネシアの豊かな資源の確保を目的に統治していましたが、戦局が厳しくなるにつれ、インドネシアの独立を認めざるを得なくなり、インドネシアの独立を約束した独立準備調査会が設けられました。その中で、民族指導者により理想の国家原案が練られ、1945年6月1日初代大統領のスカルノ氏によって発表されたのが「パンチャシラの誕生」であり、その内容が現在のパンチャシラのベースとなったとされています。

日本軍の降伏後、1945年8月17日にスカルノ氏とハッタ氏で発表された独立宣言とともにインドネシア統一を図る5つの国家理念が提唱され、そのインドネシアの建国五原則（パンチャシラ）が今日の多宗教・多民族共存国家として発展する礎となりました。

インドネシアの独立としては、独立宣言後、それを認めず再植民地化に乗り出したオランダとの間で発生したインドネシア独立戦争の終結をもって、ようやくインドネシア共和国として1950年8月に完全な独立が確約されました。

#### ●インドネシア建国五原則の内容

パンチャシラとはインドネシア共和国の国是となっている建国五原則であり、サンスクリット語から取り込まれた古ジャワ語のパンチャ=5、と、シラ=原理、という語から成っています。

##### 1) 唯一神への信仰

Ketuhanan Yang Maha Esa

##### 2) 公正で文化的な人道主義

Kemanusiaan Yang Adil Dan Beradab

##### 3) インドネシアの統一

Persatuan Indonesia

##### 4) 協議と代議制において英知に導かれる民主主義

Kerakyatan Yang Dipimpin Oleh Hikmat Kebijaksanaan Dalam Permusyawaratan/Perwakilan

##### 5) インドネシア全人民に対する社会正義

Keadilan Sosial Bagi Seluruh Rakyat Indonesia

このパンチャシラはテレビで放送されたり、学校で復唱されたり、国民は老若男女問わず誰でも覚えていると言われていています。また、教育機関の施設や工場や事務所・ホールなどの商業用の施設には、必ず大統領の肖像画と国章であるガルーダパンチャシラが飾ってあります。

神鳥（ガルーダ）が抱える盾にある5つのエンブレムがインドネシア建国五原則パンチャシラを表しています。新しく工場を建てる、事務所を設ける際には、こちらもお忘れなくお手配ください。



(バンドン アジアアフリカ会議博物館にて)

#### 「パンチャシラの日」制定

##### ● 「パンチャシラの日」制定の式典

2016年6月1日、現大統領のジョコ氏は、スカルノ氏らがアジア・アフリカ諸国の連帯を呼びかけ反植民地主義の原点となったアジア・アフリカ会議が開催されたムルデカ会館にて、建国五原則を記念し6月1日を「パンチャシラの日」として国民の祝日と定めると発表しました。また、ジョコ氏はスカルノ氏が演説した「パンチャシラの誕生」を引用し、国際社会の勝者となるための条件として勤勉とゴトンロヨン（相互扶助）を呼びかけると共に、多様性を認めるパンチャシラの精神に改めて敬意を示し「パンチャシラの精神があれば、インドネシアは国際競争でも逆境を克服することができる。全ての国民が、親から子へと受け継いでほしい」と述べ、式典ではスカルノ氏の長女である元大統領のメガワティ氏も演説を行い「日々の暮らしの中において、パンチャシラの精神を忘れないでほしい」と話したそうです。（参照：インドネシア英字紙ジャカルタポスト：

<http://www.thejakartapost.com/academia/2017/05/31/editorial-a-pancasila-holiday.html> )

##### ● パンチャシラ精神

今年の断食明け大祭「Hari Raya Idul Fitri」に向けた断食月は5月半ば～6月半にかけてでしたが、2018年5月31日にジャカルタの「Global Sevilla School」では断食明け「Buka Puasa」の式典が行われました。当校設立以降この式典は学校の定例行事として行われており、宗教問わず全校生徒・全教職員が参加しています。また他の宗教における式典に関しても宗教問わず学校全体の行事として行われています。

今年の「Buka Puasa」の式典はパンチャシラの日の前日に行われた事もあり、式典ではパンチャシラ精神について多く触れられ式典が進められた様です。学長の Robertus Budi Setiono 氏は「宗教や人

種・文化が異なっていたとしてもパンチャシラに習い、多様性を尊重し、同じインドネシア共和国の国民であり我々はひとつであること、パンチャシラ精神を忘れずに大切にしてほしい。またこの精神が今後のインドネシア教育方針の基盤となることを願っている。」と話しました。(参照：インドネシア紙 KOMPAS <http://kom.ps/AFy4JZ>)

## 「パンチャシラ」からの学び

### ●宗教観

唯一神への信仰と提唱されていますが、インドネシアの人口の約 9 割がイスラム教徒でありながら、イスラム教を国教に定めず宗教の自由を認め、イスラム教、キリスト教(カトリック・プロテスタント)、ヒンドゥー教、仏教、儒教、が公認されています。イスラム教徒もスンニ派が圧倒的に多くパンチャシラ精神に基づいた独自のインドネシアのイスラム教が確立されています。また、憲法上では無神論は違法となっており公言すると逮捕される恐れもあると言われています。実際にインドネシアでは日常会話において宗教が話題にあがる事や信仰を問われる機会が多くあります。以前、無宗教と公言しても全く問題はありませんでした。聞き手によっては面倒な事になる可能性も大いにあるかと思しますので、信仰がない方であっても当り触りのない回答をされることをお勧めします。

### ●パンチャシラとゴトンロヨン (相互扶助)

インドネシア独立後、西洋の議会制民主主義をそのまま取り入れることに抵抗があったスカルノ氏はインドネシア独自のゴトンロヨンを取り入れパンチャシラの根底に据えたとも言われています。ゴトンロヨンとは、ジャワ語でゴトン=一緒に、ロヨン=運ぶ、から成り、相互扶助を意味します。政治面ではパンチャシラ的人権・民主主義やゴトンロヨン内閣が構成されたり、教育面ではパンチャシラ精神に習った教育が行われていたり、ゴトンロヨン精神はパンチャシラ精神同様にインドネシア人の生活や文化面だけでなくインドネシアの全ての根底にあると言えると思います。

## 最後に

インドネシアの人は基本的にパンチャシラ精神を持つ民主主義的で、ゴトンロヨン精神を持った人が多く、明るく人懐っこく優しい人が多い国民柄にも納得ができます。日本も田舎ではまだ近所付き合いがある様に、インドネシアの田舎では人と人の距離がとても近く、時折ストレスになる程コミュニティが強く感じる事もありますが、その分助け合いの精神が強く、隣人の問題へのサポートや、地域行事においては個人の損得をあまり気にせず行動している人が多い様に感じます。一方ジャカルタなど都会においては、丁度よい程度の距離間があるものの、助け合い精神は強く、特に子供お年寄りには優しく、バスや電車では席を譲り合っている光景をよく目にします。相互扶助=余裕のある人が余裕のない人をサポートする意識が自然にあるインドネシア人にとっては日本人のきっちりした性格や自己責任主義が、逆にストレスとなったり、ケチと思われる事も実は多いのではないかと思います。

繰り返しになりますが、インドネシアの人は基本的に多様性を尊重するので、私たち外国人を快く受け入れてくれる人が圧倒的に多いと思いますが、郷に入ったら郷に従え、という言葉がある様に、海外で生活をする方やビジネスをされる方は、まずはその国の歴史的背景や文化や風習、言語などを知る事が大切だと思います。

今回のテーマであるパンチャシラについての基礎情報も何かしらの形でお役に立てる事を願っています。

以上

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (PT. JC内) 概要★

所在地 : Rukan Tanjung Mas Raya Blok B-1 No. 29

Jl. Raya Lenteng Agung, Tanjung Barat, Jagakarsa,  
Jakarta Selatan 12530 INDONESIA

デスク担当者 : PT. JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア : インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています(岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託)。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。また、[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#)(電話 086-226-7365)までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。